



®環境省

エコアクション21
認証番号0013360

エコアクション 21 環境経営レポート

🌿 第56期 2022年5月～2023年4月 🌿



白石鉄工株式会社

令和5年5月31日



目次

● 1	組織の概要	1
● 2	認証・登録範囲及び組織図	2
● 3	環境経営方針	3
● 4	運用期間及び中期環境経営目標	4
● 5	当期間の主要な環境経営計画	5
● 6	環境経営計画の実施体制	6
● 7	目標の実績	7
● 8	環境経営計画の取組結果とその評価	11
● 9	問題点の是正処置及び予防処置の結果	15
● 10	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	16
● 11	環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無	16
● 12	代表者による全体評価と見直しの結果	17



1 組織の概要

(1) 名称及び代表者

白石鉄工株式会社

代表取締役 本田 和明

(2) 会社設立年月日 1961年9月

(3) 資本金 4,800万円

(4) 所在地

本社工場 北九州市小倉南区新曾根1番1号
第二工場 北九州市小倉南区新曾根5番31号
新門司工場 北九州市門司区新門司3丁目67番47号
新門司機工センター 北九州市門司区新門司3丁目4番
工事部 北九州市小倉南区新曾根1番28号
大分事業所 大分県大分市牧1丁目7番16号 河野ビル1F

(5) 環境管理責任者及び担当者氏名並びに連絡先

環境管理責任者 神農 宏明 (品質管理部 課長)
TEL 093-481-6611 (新門司工場)

環境管理担当者 白石 嘉乃子 (取締役 管理本部長)
TEL 093-472-3411 (本社工場)

(6) 事業内容

製造業 (金属製品、鋼構造物の製作)

建設業 (鋼構造物工事業)

(7) 事業規模

売上高 2,270百万円 (令和4年5月~令和5年4月)

	本社工場	第二工場	新門司工場	新門司機工センター	工事部	大分事業所
従業員数	43	22	29	3	12	3
延べ床面積	3,190 m ²	4,380 m ²	2,390 m ²	2,130 m ²	520 m ²	40 m ²

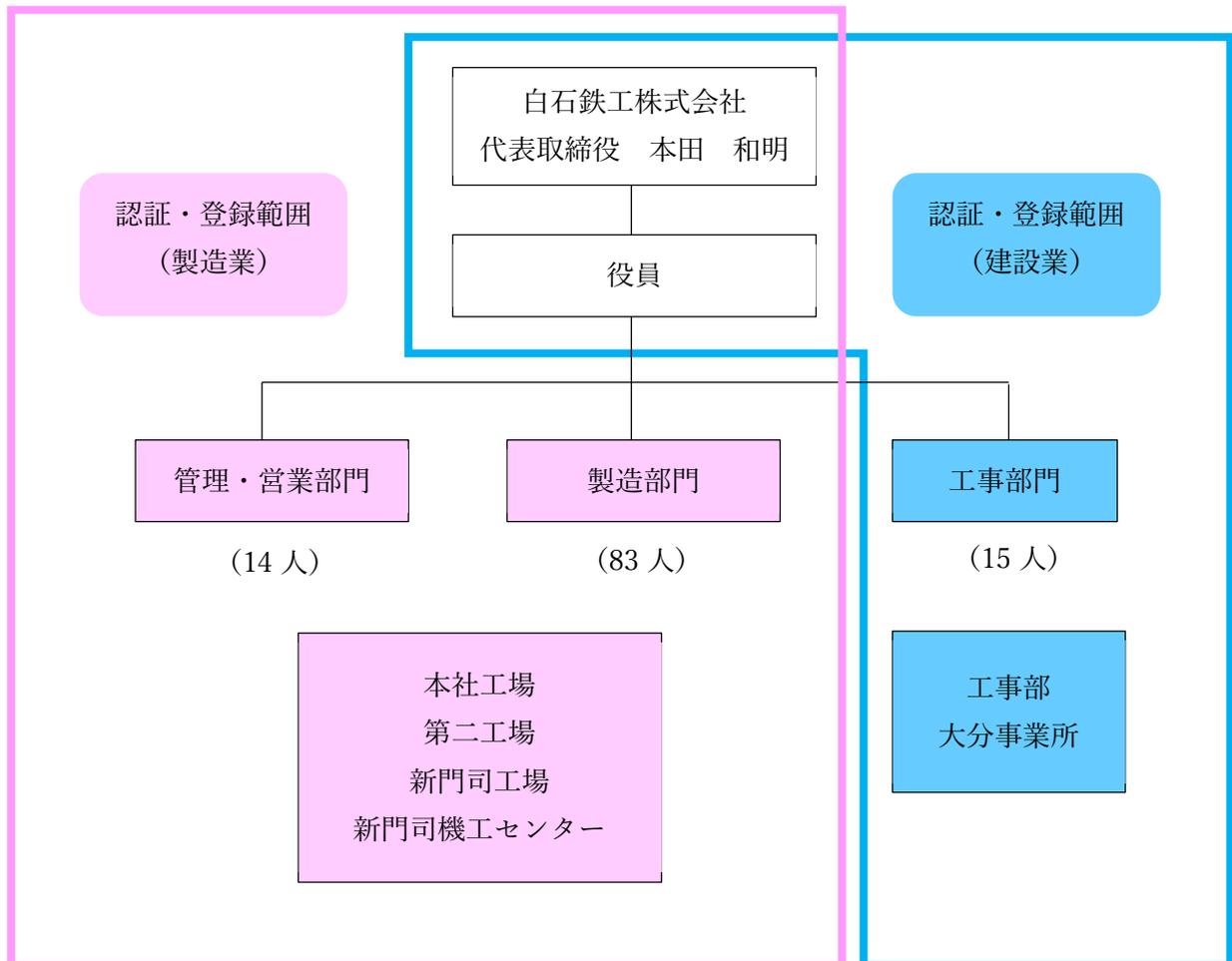
(8) 事業年度 5月~4月

(今回の経営レポートの対象期間は、令和4年5月~令和5年4月)



2 認証・登録範囲及び組織図

- (1) 対象事業者名 白石鉄工株式会社
- (2) 対象事業活動 製造業（金属製品・鋼構造物の製作）
建設業（鋼構造物工事業）
- (3) 対象事業所 製造業 本社工場
第二工場
新門司工場
新門司機工センター
建設業 工事部
大分事業所





3 環境経営方針

基本理念

白石鉄工株式会社は、地球環境改善を重要な課題と位置づけ、鋼構造物の製作を通じて環境への負荷低減に積極的に取り組めます。

そのため環境経営システムを構築・運用することにより、継続的かつ着実に環境保全活動を行い、次世代に承継できる環境の実現を目指します。

行動指針

環境経営システムを構築・運用し、環境関連法規等を遵守するとともに、環境負荷の低減に取り組めます。以下の行動指針に基づき、環境経営目標及び環境経営活動計画を定め、定期的な見直しを行い、継続性のある活動を展開します。

1. 二酸化炭素排出削減に取り組めます。
使用エネルギー（電気、ガソリン、軽油）の削減に努めます。
2. 廃棄物の削減
板取りなどを工夫し、材料ロスを低減させ、廃棄物の削減に努めます。
書類の電子化を推進するなど、紙使用量の削減を図ります。
3. 水使用量の削減
節水に努め、水使用量を削減します。
4. 環境負荷の低い機械（騒音・振動・省エネ）を積極的に使用します。
5. リサイクル品などの環境に良い商品の購入・採用に努めます。
6. 水力発電、風力発電、バイオマス発電の再生可能エネルギー関連設備工事の受注を通し、温室効果ガス削減に貢献します。
7. 事業活動に関連する安全衛生及び環境関連法規等を遵守します。
8. ISO 9001の活動により、品質の向上を図り、不適合品・クレームの削減に努めます。
9. 5S活動を推進し、品質と生産性を向上させることによって、環境負荷低減を目指します。
10. 安全衛生活動を通じ、安全で働きやすい環境の構築に努めます。
11. 地域社会との環境コミュニケーションを良くし、地域の環境保全に努めます。
12. この環境経営方針は、従業員全員に周知するとともに、研修や教育・訓練を行い全社員の環境保全に向けた意識の向上に努めます。
13. 基本理念を実現するため、環境経営の継続的改善を誓約します。
14. この環境経営方針は広く一般に公表します。

令和3年1月1日制定

白石鉄工株式会社
代表取締役 本田 和明



4 運用期間及び中長期環境経営目標

項目	単位	基準	目標				 2030年 (64期)
		55期 2021/5~2022/4	56期 2022/5~2023/4	57期 2023/5~2024/4	58期 2024/5~2025/4		
二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO2	370,956	367,247 (-1%)	365,392 (-1.5%)	363,537 (-2%)	352,409 (-5%)	
電力使用量の削減	kWh	651,056	644,545	641,290	638,035	618,503	
ガソリン使用量の削減	ℓ	23,438	23,203	23,086	22,969	22,266	
軽油使用量の削減	ℓ	22,504	22,279	22,166	22,054	21,378	
灯油使用量の削減	ℓ	2,312	2,289	2,277	2,266	2,196	
液化石油ガス使用量の削減	Kg	3,741	3,703	3,685	3,666	3,554	
一般廃棄物排出量の削減	Kg	7,933	7,854	7,814	7,774	7,536	
産業廃棄物排出量の削減	Kg	61,700	61,083	60,775	60,466	58,615	
水使用量の削減	m ³	3,310	3,277	3,260	3,244	3,145	
コスト削減・節約 節電運動		—	継続	継続	継続	継続	
安全衛生活動の 継続		—	継続	継続	継続	継続	
5 S 活動の継続		—	継続	継続	継続	継続	
CSR 活動の実施		—	活動実施	継続	継続	継続	
不適合製品・クレームの3割削減	件数	13	9	7	5	4	
製品・サービスに関する事項		—	継続	継続	継続	継続	

* 電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2019年度の調整後排出係数 0.371kg-CO2/kWhを用いた。

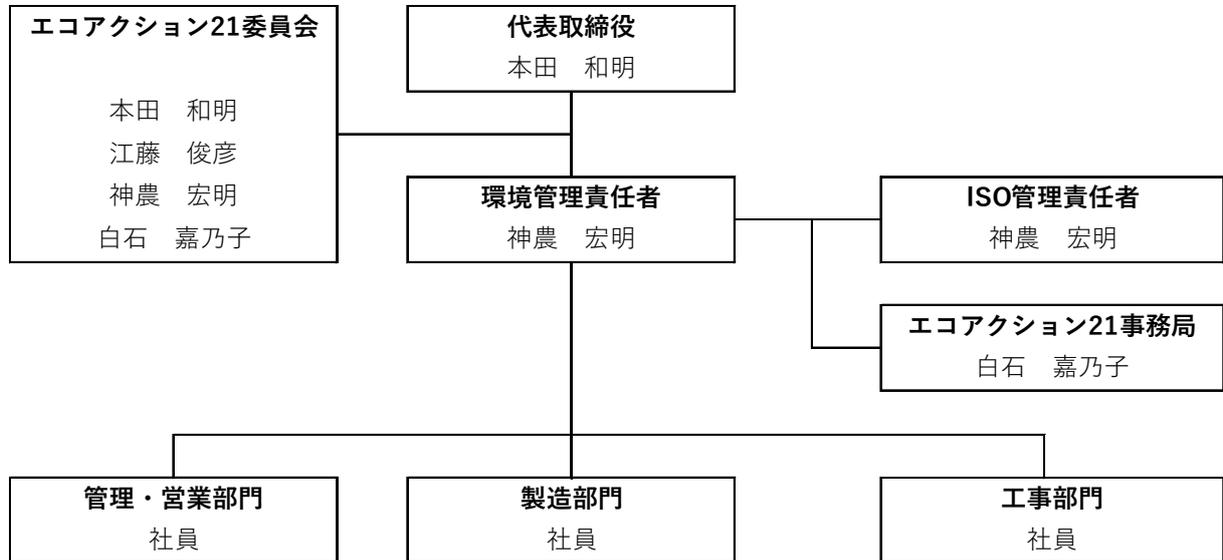


5 当期間の主要な環境経営計画

項目	SDGs との関連	計画内容
電気使用量の削減	エネルギーをみんなに そしてクリーンに 気候変動に 具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> ・未使用時の消灯 ・室温管理の徹底
燃料使用量の削減	エネルギーをみんなに そしてクリーンに 気候変動に 具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの徹底 ・効率のよい作業管理 ・未使用時の管理
廃棄物総排出量の削減	つくる責任 つかう責任 陸の豊かさも 守ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・書類の電子化 ・材料ロスの削減
水使用量の削減	安全な水とトイレ を世界中に	<ul style="list-style-type: none"> ・適正利用を心掛ける
コスト削減	エネルギーをみんなに そしてクリーンに つくる責任 つかう責任 気候変動に 具体的な対策を 陸の豊かさも 守ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の使用量を把握し、削減に繋げる
安全衛生活動の継続・推進	すべての人に 健康と福祉を 働きがいも 経済成長も	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生委員会の実施 ・安全衛生活動、教育の実施 ・健康診断、産業医面談等の実施
5 S 活動の継続・推進	すべての人に 健康と福祉を 働きがいも 経済成長も	<ul style="list-style-type: none"> ・5 S 委員会の開催 ・週1回の職場一斉清掃の実施 ・5 S パトロールの実施
CSR活動の実施	住み続けられる まちづくりを 平和と公正を すべての人に パートナシップで 目標を達成しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動の積極的な実施 ・社内ニュースやホームページ等で活動を社内外に発信
不適合・クレームの削減	エネルギーをみんなに そしてクリーンに 産業と技術革新の 基盤をつくろう つくる責任 つかう責任 気候変動に 具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> ・不適合製品、クレームの発生件数を5か年平均の7割以下に抑えるように努める
製品・サービスに関する事項	エネルギーをみんなに そしてクリーンに 産業と技術革新の 基盤をつくろう つくる責任 つかう責任 気候変動に 具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> ・環境関連設備や新エネルギー事業関連の受注活動を積極的に行う



6 環境経営計画の実施体制



氏名・部門	所属（役職）	役割・責任・権限・使命
本田 和明	代表者	* 全体の統括、経営における課題とチャンスを整理・明確化し、環境方針の設定、実施体制の構築、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し
神農 宏明	環境管理責任者	* 全体の把握／環境経営システムを構築し、運用し、その状況を社長に報告する
神農 宏明	ISO管理責任者	* 品質マネジメントシステムとエコアクション21の環境マネジメントシステムを関連付け、運用しその状況を社長に報告する
白石 嘉乃子	エコアクション21事務局	* エコアクション21文書及び記録類の作成・維持・管理
エコアクション21委員会	エコアクション21委員会	* 3ヶ月に1回開催し、環境目標の達成状況および活動計画の実行状況を審議する
本田 和明	営業部門 工事部門	* 営業部門・工事部門の環境管理
江藤 俊彦	製造部門	* 製造部門の環境管理
宮脇 圭太	管理部門	* 管理部門の環境管理



7 目標の実績（全社）

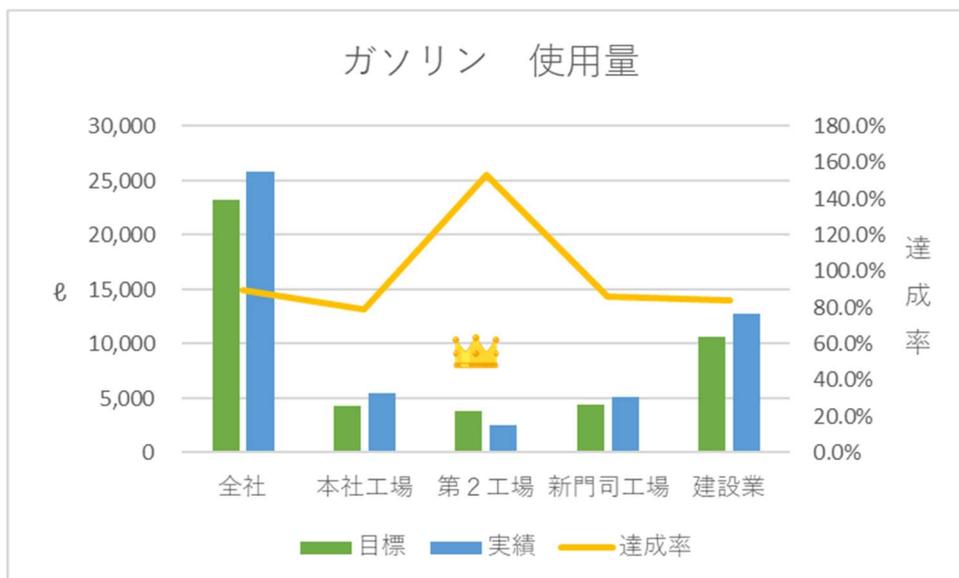
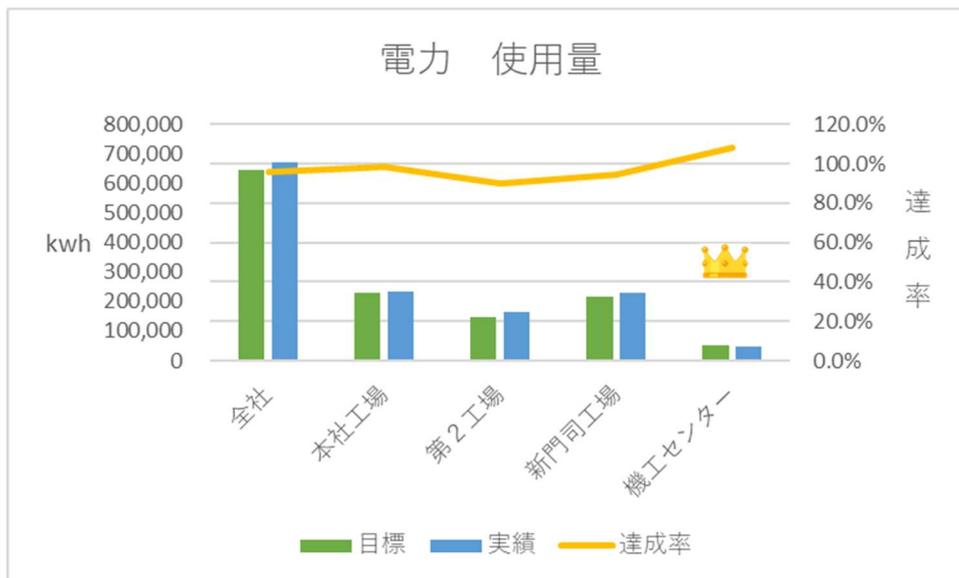
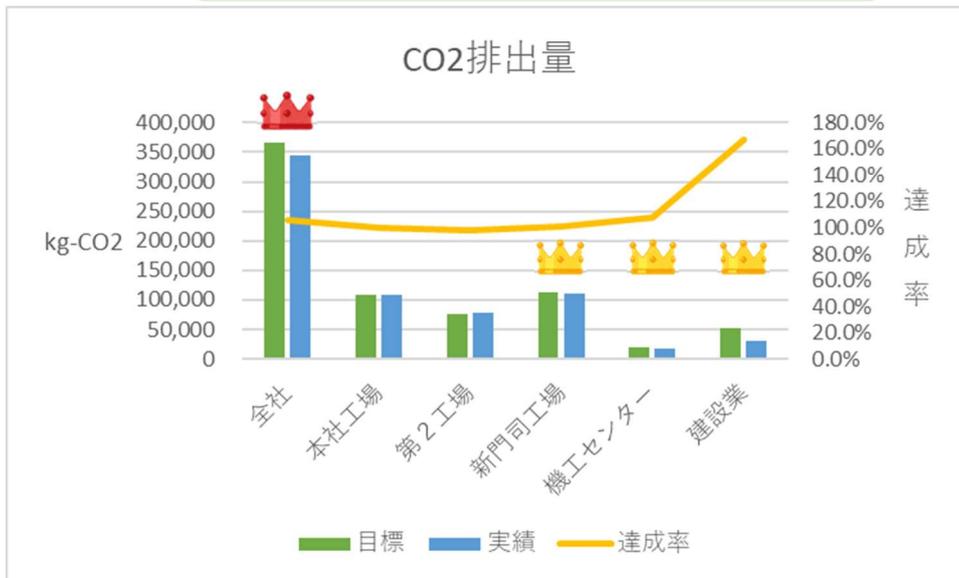
項目	単位	目標	56期実績 2022/5～2023/4	
				達成率
二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO2	367,247	345,481	106%
電力使用量の削減	kWh	644,545	673,386	96%
ガソリン使用量の削減	ℓ	23,203	25,795	90%
軽油使用量の削減	ℓ	22,279	8,747	255%
灯油使用量の削減	ℓ	2,289	1,386	165%
液化石油ガス使用量の削減	Kg	3,703	3,267	113%
一般廃棄物排出量の削減	Kg	7,854	7,080	111%
産業廃棄物排出量の削減	Kg	61,083	111,690	55%
水使用量の削減	m ³	3,277	3,162	104%
コスト削減・節約・ 節電運動	—	—	A	—
安全衛生活動の継続	—	—	B	—
5 S 活動の継続	—	—	A	—
CSR 活動の実施	—	—	A	—
不適合製品・クレームの 3割削減	件数	9	41	22%
製品・サービスに関する 事項	—	—	B	—

* 電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2019年度の調整後排出係数 0.371kg-CO₂/kWh を用いた。

* 取組実績評価の表記 A:良好な実績・B:普通程度の実績・C:活動不足・—:未活動とする。



7 目標の実績（工場別・項目別）

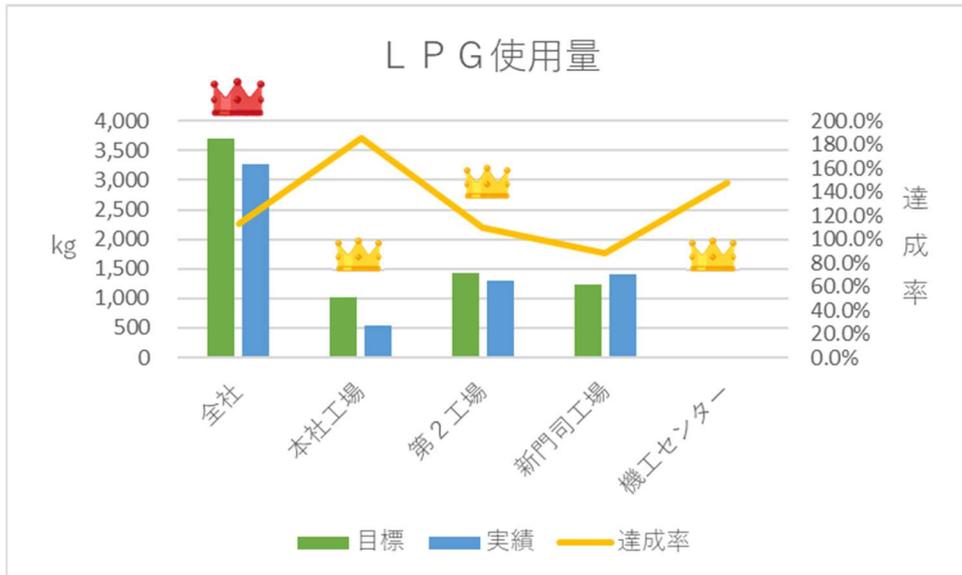


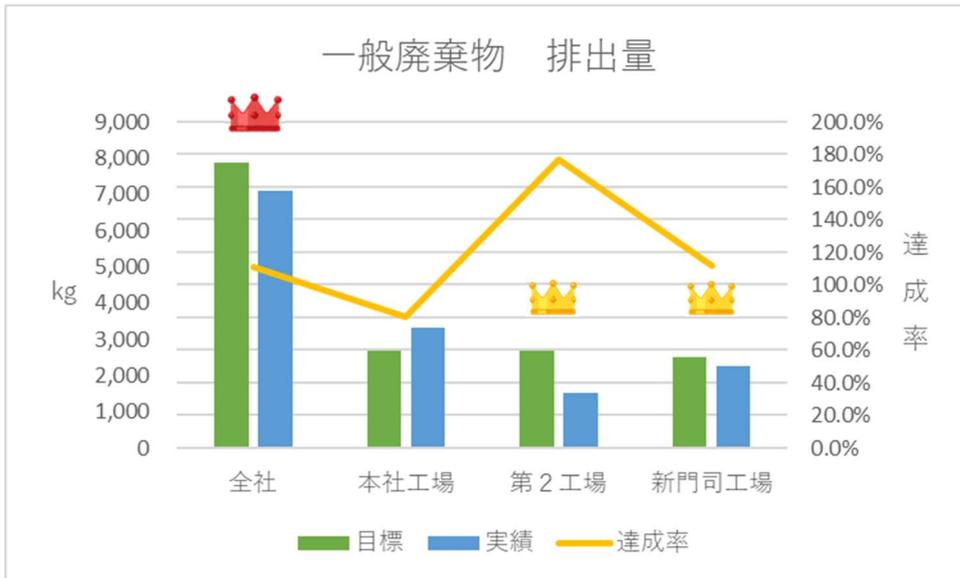


※ 機工センター分は3工場に按分



※ 機工センター分は3工場に按分





※ 機工センター分は3工場に按分





8 環境経営計画の取組結果とその評価

(1) 電力使用量の削減

- ・全社の達成率は95.7%と、目標数値に一步及ばなかった。電力料金も値上げが続いているため、こまめな消灯等、これからも一人ひとりの小さな積み重ねを継続していきたい。

(2) 燃料使用量の削減

- ・ガソリン使用量の全社の達成率は90%、第2工場以外は目標未達であった。軽油使用量は各工場とも目標を達成し、全社で255%と大幅な使用量削減を達成できた。これからもエコドライブの心がけを続けていきたい。
- ・液化石油ガスの使用量は全社では113%の達成率だったが、新門司工場では88%の未達であった。当社は各工場で作成するものが違うため、一概に各工場別の目標数値管理が難しいところがあり、使用量が偏ったためと思われる。
- ・灯油の使用量は全社で165%の目標達成ができた。これからも節約を心がける取組を進めていきたい。

(3) 廃棄物総排出量の削減

- ・一般廃棄物については本社工場が81%と目標未達であったが、全社では111%目標を達成できた。これからも電子化をすすめ紙資源の使用を減らし、廃棄物のリサイクルの取組も継続して削減活動を進めていきたい。
- ・産業廃棄物については本社が125%、第2工場が107%と目標達成できたが、新門司工場は40%、機工センターは57%の未達で、各工場間の排出量の差が大きかった。全社合計でも55%と大幅な未達となったが、産業廃棄物に関しては、受注した製品によるところも大きいため、一概な目標数値管理が難しいのが現状であるが、不適合による廃棄や発注を見直し材料ロスを削減するなどの取組を進めていきたい。

(4) 水使用量の削減

- ・本社工場が95.6%、第2工場が81.6%の未達だったが、全社で103.6%の達成ができた。当社はタンク製造の品質検査において水張試験を実施する等、受注した製品によって使用量の影響があると思われるが、今後も適正使用の声掛けを進めていきたい。

(5) コスト削減

- ・毎月の各使用量を把握し、社内で回覧して数値を意識してもらい、削減に繋げる活動を続けていく。すでに定着している活動だが、形骸化していかないような工夫をして続けていきたい。

(6) 安全衛生活動の継続・推進

- ・月1回の安全衛生教育、安全衛生パトロール、安全衛生委員会を行った。
- ・健康診断、産業医パトロールの実施等の健康管理活動を行った。
- ・防災訓練、AEDの実施訓練を実施した。

安全衛生活動に関しては日常の活動は行えているが、意識低下がみられ、休業無しの労災事故が数件発生している。1件の重大事故の背後には、重大事故に至らなかった29件の軽微な事故が隠れており、さらにその背後には事故寸前だった300件の異常、いわゆるヒヤリハットが隠れているという「ハインリッヒの法則」をもう一度全員で肝に銘じ、重大災害に繋がらないよう活動していきたい。

防災に関してはまだまだ意識が低いため、年1回の防災訓練と、社内の消防設備等の点検を確実に行っていきたい。

(7) 5S活動の継続・推進

- ・週1回の職場一斉清掃の確実な実施が行われた。
- ・3か月毎の5S委員会及び活動報告と5Sパトロールを実施した。

社内の5S活動については形骸化が見られるので、取組の見直しを行いたい。

(8) CSR活動の実施

- ・2021年の北九州市SDGs登録制度認証に続き、福岡県SDGs登録制度の登録認証を受けた。
- ・ホームページの「社会への取り組み」ページで、地域貢献等の活動を発信した。
- ・社内向けの広報誌を不定期に発行し、会社が行っているCSR活動やSDGs等の環境に関する記事、社内の啓もう活動を実施した。
- ・地域の歩道清掃や献血等のボランティア活動を行った。

(9) 不適合・クレームの削減

- ・5か年平均の発生件数に対して3割削減の9件の目標を立てたが、41件という大幅な発生件数となってしまった。再発防止に向けた分析・対策などを徹底して行い、不適合を発生させない仕組みづくりを目指して改良に取り組んでいきたい。

(10) 製品・サービスに関する事項

- ・社員の環境に関する知識や意識を高めるため、広報活動を行った。
- ・自社の製品と環境との関わりを全社員で共有していくため、広報活動を行った。

当社の事業活動により生み出される製品が、温室効果ガス削減のための新エネルギー事業を支えていることを社員全員が認識して、日々の活動に誇りややりがいを持って取り組めるよう、広報活動を続けていきたい。

省エネ（節電）の取組



節水の取組



ゴミ減量化・リサイクルの取組

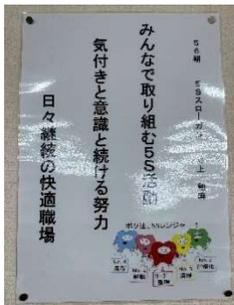


排ガス低減の取組



5S・安全衛生活動の取組

社内広報（CSR活動・製品サービス）の取組



緊急時訓練（地震体験・消防訓練）2022年10月15日実施



地域貢献（清掃活動）





9 問題点の是正処置及び予防処置の結果

問題点の発生確認日	令和5年5月31日
問題点の項目	56期の数値目標管理項目の実績が揃い、目標未達の項目が判明した ・ 電力使用量の削減 ・ ガソリン使用量の削減 ・ 産業廃棄物排出量削減 ・ 不適合・クレームの発生件数
問題点の内容	・ 電力使用量の削減達成率が95.7% ・ ガソリン使用量の削減達成率が90.0% ・ 産業廃棄物排出量の削減達成率が54.7% ・ 不適合・クレーム発生件数の削減達成率が22%（目標9件・実績44件）
問題点の発生要因	・ 電力使用量…工事量の増加。 特に溶接量の多い、管・ダクト類の製作の増加 ・ ガソリン使用量…工事量の増加、外注の発注の増大による打合わせ、 立会等、出張機会の増加 ・ 産業廃棄物排出量…工事量の増加、機工センター片付けの実施 ・ 不適合・クレーム発生件数…突貫工事の増加による不良率の増加
改善対策の内容	・ 電力使用量…節電に努める ・ ガソリン使用量…リモート会議の促進、近隣業者への発注促進 ・ 産業廃棄物排出量…ネスティングの工夫や材料ロスのないような発注 ・ 不適合・クレーム発生件数…突貫工事が発生しないよう工程の管理、 早期図面支給の客先への働きかけ
実施のスケジュール	・ 電力使用量… ・ ガソリン使用量… ・ 産業廃棄物排出量… ・ 不適合・クレーム発生件数… } 令和5年6月の会議の場で、各工場長に改善の呼びかけを行う
対策実施の結果確認	令和5年5月末時点で未実施である



10 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境に対する活動を、安全衛生活動、品質活動と並ぶ活動として定着させることを大きな目標とし、次期も活動の見直し等を行い、環境に対する意識のレベルアップを図る。



11 環境関連法規などの遵守状況及び違反、訴訟等の有無

当社が遵守しなければならない主な環境関連法規等は次の通り。

法律名等	主な遵守事項または規制基準
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律（公害防止組織法）	公害防止統括者の選任 公害防止管理者の選任
騒音規制法	特定施設の届出
振動規制法	特定施設の届出
消防法	火災予防
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）	事業系一般廃棄物の処理 産業廃棄物の委託処理 マニフェスト管理
フロン排出規制法	エアコン・冷凍（冷蔵）機器の点検
労働安全衛生法	事務所、作業場の環境保全

それらの遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はなかった。なお、関係当局及び利害関係者からの違反等の指摘及び訴訟もなかった。



12 代表者による全体評価と見直しの結果

- (1) 未達項目がいくつかあるが、売上金額当たりの CO2 の排出量は改善しており、システムは有効であると評価する。また福岡県 SDG s 登録事業者に選定されたことは、皆の活動が広く評価されたものとして大変喜ばしい。
- (2) 再生可能エネルギーや水素、アンモニア等の新エネルギーによる発電設備や、環境に配慮した設備更新には、これまでと違う技術や新しい知識が必要とされている。したがって、今後もこれらの技術や知識の習得につとめ、環境関連設備の受注を広げていきたい。
- (3) ISO90001 に加え、安全衛生活動に環境活動を組み込み、安全専任者の日々の安全パトロールに環境の項目を加え、環境パトロールを行うなど、きめの細かい啓もう活動を行う。